

丹波市中小企業・小規模企業振興協議会 会議要録

■日 時 令和8年7月14日（火）午前10時～午前11時30分

■場 所 丹波市商工会（本所）

■出席者 （委員）

丹波市商工会	会長	岡林	利幸
丹波市工業会	会長	芦田	基
丹波市観光協会	会長	足立	環
中兵庫信用金庫	本店営業部副部長	足立	昌俊
丹波ひかみ農業協同組合	総務部企画課長	安田	享生
柏原公共職業安定所	所長	秋山	直弘
丹波県民局	県民躍動室たんば共創参事	山本	伸之

（事務局）

丹波市産業経済部	部長	徳岡	泰
丹波市産業経済部商工観光課	課長	福田	貴之
〃	参事	宮野	真理
〃	企業立地係長	多田	健剛
〃	観光係長	山内	吉一
〃	商工係長	三原	英憲
丹波市商工会	事務局長	四方	啓介

■傍聴者 1名

会 議 要 旨

1 開会（産業経済部長あいさつ）

2 委嘱書の交付

3 委員紹介

4 会長選出

事務局一任により、丹波市商工会会長を選出

5 議題

（1）中小企業・小規模企業の支援策について

事務局より説明

【委員】

「たんばコイン」事業に関連して確認ですが、以前のプレミアムコインと今回の5%・10%還元企画とでは、予算規模にどのような差異があるのか教えていただきたいです

【事務局】

予算規模については、令和7年度のプレミアム分における補助金額が約8,000万円です。今年度のポイント還元分については約5,000万円を予定しています。現在は家計を預かる40代から50代の女性の利用が多いですが、若年層への普及を図るため、先日も30代以下で初めてチャージした方へ500ポイントを進呈するなどの取り組みを行いました。また、ラジオ体操や人権セミナー等の市事業への参加に対し「まちづくりポイント」を交付するなど、他課の事業でも「たんばコイン」を使う機会を増やしています。

【会長】

今のお話では、地域通貨としての普及をさらに広げていく意図があるということでしょうか。

【事務局】

その通りです。現在、アプリのインストール数は約1万8,000人ですが、特に若い世代の利用を広げていきたいと考えております。

【会長】

関連して、5%・10%還元というのは、プレミアム商品券発行時に地域店舗での利用を条件とする事業のことでしょうか。

【事務局】

還元事業は4月から開始していましたが、ゴールデンウィーク前に交付が始まった「生活応援給付金」は還元対象外としていました。早期にPRすると誤解を招く恐れがあったため、7月のたんばコインチャージ会から周知を本格化させています。

【会長】

今後PRを強化していく段階ということですね。

【委員】

2点質問します。まず奨学金制度について、丹波市でも実施していただき感謝いたします。県としては市町と併用して発信していきたいと考えておりますが、制度を作っても活用してもらえるかが重要で、10年程度の長期的な視点でのデータ収集が必要ではないでしょうか。ターゲットとなる方々にどのように伝えていくかが課題だと思いますが、その点のお考えを伺いたいです。2点目は周遊バス補助金についてです。利用件数が89件と実績が上がっていますが、京阪神や県内など、どの地域からの利用が多いのでしょうか。

【事務局】

奨学金については、県の制度がある中で1年以上の検討を重ねて構築してきました。本制度は単なる県の随伴ではなく、県制度にある要件を緩和し、例えば県外に本社がある市内の事業所も対象とするなど、県内でもトップクラスの支援策となっています。周知については、まず企業側に対して、手当制度の導入を促すべく、昨年度のアンケートで前向きな回答があった30余社に対して重点的に周知を図っています。学生・卒業生側に対しては、市独自のポータルサイトやフェアで制度化されている企業を広報するほか、企業側が求人時に他社との差別化として発信できるよう後押ししたいと考えています。

バス旅行促進事業については、市内の観光施設2箇所の周遊と食事を条件としています。利用89件の内訳は、大阪市19件、神戸市11件、京都市8件、尼崎市6件など、近畿圏からの利用が中心です。なお、レンタカー等補助は327件中、県内利用が約半数ですが、県外からは全国各地から利用されています。

【委員】

旅行のターゲットが近畿圏に偏る傾向がありますが、宿泊施設の新規開業や道路網の整備を鑑み、北陸や山陰方面などからの誘客も深掘りしていただきたいです。独自施策を広げることで、さらに誘客の可能性があると考えています。

【委員】

観光需要は秋に集中しがちですが、四季を通じた誘客こそが重要課題です。観光協会としても巡り事業を増やしていきたいと考えているところです。レンタカー補助等の周知不足も懸念されるため、旅行会社へのアピールにも努めていただきたい。

【事務局】

レンタカー補助については、京阪神の大手レンタカー会社へ直接出向き、周知を進めています。

【会長】

商工会では事業承継が深刻な課題です。会員数は維持していますが、年間70～80件の退会があり、その大半は後継者不在による廃業です。後継者の帰郷による事業継続は地域雇用

の維持に直結します。設備投資や相談体制を含め、一步踏み込んだ支援を長期的視点で検討していただきたいです。

(2) 丹波市産業振興計画の策定について

事務局より説明

【会長】

骨子がきっちり決まっているわけではなく、これからこうやって進めていきますということですね。

【事務局】

今回の計画策定の特徴は、これまでの商工観光に農林業を加え、分野横断的な連携を図る点にあります。

(3) オープンファクトリーについて

事務局より説明

【委員】

オープンファクトリーについて、具体的な魅力や候補といった骨子があるのか、あるいはこれから構築する段階なのか伺いたいです。

【事務局】

丹波市には多くの魅力的な製造業を営む事業所があります。オープンファクトリーとは工場自体を観光資源と捉える概念であり、一般公開により学びの場を提供し、丹波市の特性である農業や食の体験と組み合わせることで独自のコンテンツを創出するなど、無限の可能性があると考えています。また、提供側の事業所の効果として、従業員の意識向上や仕事への充足感に伴う若年層の定着、採用力の強化や新規顧客の獲得なども期待できます。

【委員】

地域おこし協力隊を活用されるということで、多分野を巻き込む活性化策としていただきたいと思います。

【会長】

農業体験から加工、食に至るまでを一貫したルートとして完結させ、市内外の人が体験できる形という理解でよろしいでしょうか。

【事務局】

業種の組み合わせなどは試行錯誤しながら、アンケートを基に構築していきたいと考えています。

【委員】

市内で生産から加工まで完結している事例（ひまわりのプリザーブドフラワー化など）は丹波市の強みです。農業遺産や里山保全の観点からも、オープンファクトリーの概念は有効だと考えます。高齢化による担い手不足や林業の現状も含め、広く周知することが必要です。

【会長】

着手にあたっては、特定の産品に絞ったモデルルートを先行させ、そこから横に広げていく手法が良いのではないのでしょうか。それをヒントに関係団体含めて広げていくことで、より具体的な案が出やすくなり、協力もしやすくなっていきます。

【委員】

単なる工場見学に留まらず、丹波独自の「空気感」や「起業の風土」を盛り込んではいかがですか。小中学生の段階から地域の魅力を伝え、将来の帰郷や起業を促す意識醸成が必要です。他地域にはない「丹波独自ファクトリー」を目指していただきたいです。

【事務局】

観光資源を単なる「点」ではなく「面」として捉え、滞在時間の延長を図るとともに、若年層の起業風土の醸成も検討します。また、企業間取引（BtoB）の拡大に向けた可能性な

ど、参加事業所のメリットも考えていきます。

【会長】

議題に拘らず、フリートークとして発言はありますか。

【委員】

金融機関の立場から、市の制度融資や保証料補助は大変魅力的であり、制度をやめられた市町もありますが、ぜひ継続していただきたい。

【委員】

JAで行っている親子農業体験などのイベントは好評を得ており、今後も協力できることがあればと考えています。

【委員】

観光協会としても丹（まごころ）のやさい巡りなどの事業を計画していきたいと考えており、JA等との連携を深めたいです。

【委員】

国の助成金制度と併せ、ハローワークでも周知に協力します。就職前の事前の工場見学はミスマッチ解消に有効です。丹波地域の企業は見学にも積極的で、そういったリストを作成して求職者に案内していくことを検討しています。

【会長】

商工会の「丹波旨い日」事業を、スタート時の本来の形とは違うかもしれないが、市全体のイベントとして市に協力していただき、盛り上がることを期待します。

6 閉会